



長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

ヤノナミガタチビタムムシ

キ-ワ-ド：ケヤキ、食葉性害虫

「まだ夏なのにケヤキの葉が赤くなってきた。」「ケヤキの葉がなくなってきた。枯れているのではないか。」などの相談があります（写真-1）。最も多い原因としてはヤノナミガタチビタムムシによる葉の食害があります。

ヤノナミガタチビタムムシ

ケヤキが、7月から8月にかけて葉が褐変、落葉し、落葉などに食害痕などがある場合、その原因はこのタムムシによる食害であることが多くあります。

成虫は小型の卵形（体長2.6～4.2mm）で、光沢のある褐色の3本の波型をした銀白色の横帯を持っています（写真-2）。1年に1回発生し、成虫、幼虫ともにケヤキの葉を食害します。まれにムクノキが食害を受ける場合があります。



写真-1. 被害木

被害の状況

成虫は、ケヤキの粗皮下などで数頭から数十頭で集団越冬し、翌春芽吹きごろから活動しはじめ若葉を食害し、5月以降に葉縁に産卵します。

ふ化した幼虫は、葉に潜り込んで葉肉を食害し成長します。幼虫は、葉に潜り込んで葉肉を食害するため、食害初期には目立ちませんが、食害がすすんで食害部分が大きくなると褐変して目立



写真-2. ヤノナミガタチビタムムシ成虫

つようになり、大発生している場合、この時期に早期落葉します（写真 - 1、3）。

成虫の食害は、春はほとんど目立ちません。被害葉内で蛹化し、羽化脱出した成虫による夏の食害は、葉脈を残して食害するため、被害葉は網目状になります（写真 - 4）。

被害への対応

被害木は、見た目に葉が非常に少なくなったり、夏に褐変が進むために、大きな被害のようにみえます。

しかし、この被害では、葉の食害で立木の成長が悪くなることはありますが、立木が枯れることはなく、大発生してもカラマツの食葉性害虫同様に2、3年で被害が終息しますので、防除を急いで行う必要は少ないといえます。

防除を行う場合は、幼虫や蛹とともに早期落葉した被害葉を集めて焼却する方法、マツなどで行われている「こも巻き」を行い、冬に「こも」内で越冬している成虫を殺虫する方法が対策としてあげられます。なお、樹冠への薬剤散布は、被害木の樹高が高いことや登録薬剤がないため、現状では実施することは困難です。



写真 - 3 . 幼虫による被害



写真 - 4 . 成虫による被害

担当者 育林部 岡田充弘